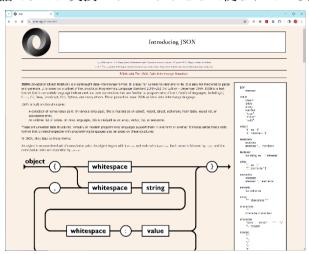
JSON

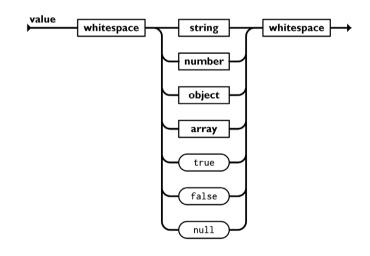
JavaScritp Object Notation の頭文字。

JavaScript の Object 型データをソースコード内に記述する方法として開発された。

その記述法の手軽さと、記述内容の理解のしやすさから Python、Ruby、Java、C#、C++などのインターネットを媒介にする言語でデータ交換フォーマットとして使われている。



JSON で表現可能なデータ型は、「オブジェクト」、「配列」、「数値」、「文字列」、「真偽値」、「null」の 6 種類。



■JSON と Python の関係

Python には JSON の読み書きに必要なパッケージが標準で用意されている。

Python のデータ型	JSON のデータ型
リスト型(list/tuple)	配列(array)
辞書型(dict)	オブジェクト(object)
数值型(int/float)	数值型(string)
文字列型(str)	文字列型(string)
ブール型(bool)	真偽型(boolean)
None	ヌル (null)

■JSON ファイルの読み書き

◆JSON への書き込み

◆JSON に書き込んだデータを読み出す

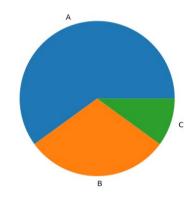
#1 で書き込んだ JSON ファイルを#2 で読み込み、表示します。

```
#2
import json
with open('test.json', 'r', encoding='utf-8') as fp:
    data = json.load(fp)
print(data[0]['name'], data[0]['age'])
print(data[1]['name'], data[1]['age'])
```

■JSON のデータで円グラフを描く

```
#3
import matplotlib.pyplot as plt

values = [60, 30,10]
labels = ['A', 'B', 'C']
plt.pie(values, labels=labels)
plt.show()
```



■人口推移グラフの作成

日本政府の統計「e-Stat | のサイトから、「人口推計(大正9年~平成12年) |



e-Stat から得られたデータは Excel データ。 これを JSON 形式に作り替える。

こうしたデータは、国や行政機関が「オープンデータ」として公開しています。 オープンデータとして公開されているものは、自由に使えて再配布もできます。つまり、著作権がありません。

データには、国政超査による人口統計や、気象庁の気象情報、災害情報、地方自治体では公共施設、 医療機関、防犯災害情報などを公開しています。また、多くの国々で同様の情報を公開しています。

また、個人や企業などが公開している情報には、既に著的財産としての制限のない「Pd」(パブリックドメイン)や、範囲内でのライセンス使用が許されている「CC」(クリエイティブコモンズ)などがある。

なお、CCの種類には、

表示 (BY)	著作権者の表示が必要			
非営利(NC)	非営利目的での使用に限定			
改変禁止(ND)	改変を禁止			
継承 (SA)	改編して公開する場合、もとの作品のライセンスを継承する必要がある			

◆さまざまなオープンデータ

「青空文庫」では、文学作品も公開されている。



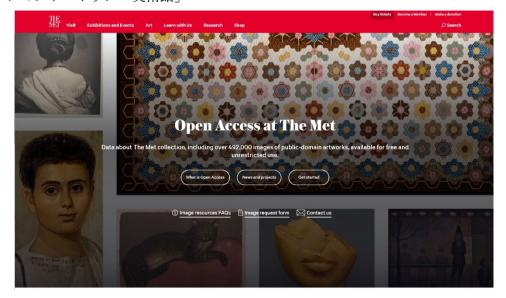
インターネットの電子図書館、青空文庫へようこそ。

「青空文庫、新館準備中」

初めての方はまず「<u>青空文庫早わかり</u>」をご覧ください。 ファイル利用をお考えの方は、<u>ごちら</u>をご一読ください。 「<u>青空文庫収録ファイルを用いた側端配信をお考えのみなさまへ</u>」

			,	メイン	エリア						
<u>青空文庫早わかり</u>	青空文庫の使い方と約束事を紹介しています。初めての方、ファイルやキャブチャーの取り扱いについて知りたい方も、こちらへどうそ。										
総合インデックス	作家名、作品名の50音別に、公開作品と入力・校正作業中の作品を一覧できるインデックスです。公開中の作品 下の近道もご利用ください。					中の作品を打	ますときは、				
公開中 作家別:	<u>あ行 か行</u> ま行 か行			な行 他	は行						
公開中 作品別:	<u></u>	<u>か</u>		<u> </u>	Æ	<u> </u>	<u>(#</u>	<u>#</u>	<u>#</u> >	5	<u>12</u>
	<u>U1</u>	<u> </u>		<u>U</u>	<u>5</u>	Œ	<u>v</u>	<u> 7+</u>		<u>5</u>	<u>を</u>
	2	<u><</u>		す	2	<u>86</u>	16	<u></u>	<u>100</u>	<u>a</u>	<u>6</u>
	<u> </u>	<u>け</u>		11	<u></u>	<u>ta</u>	\triangle	<u>&</u>		<u>n</u>	
	<u></u>	<u>z</u>		₹	<u>Ł</u>	<u>o</u>	<u>(J.</u>	<u> </u>	<u>£</u>	<u>3</u>	他
作業中:	作家別・作	品別									
<u>青空文庫 分野別リスト</u>	分野別に公	開作品を	一覧できる	5、イン	デックスです	•					

・ニューヨーク「メトロポリタン美術館」

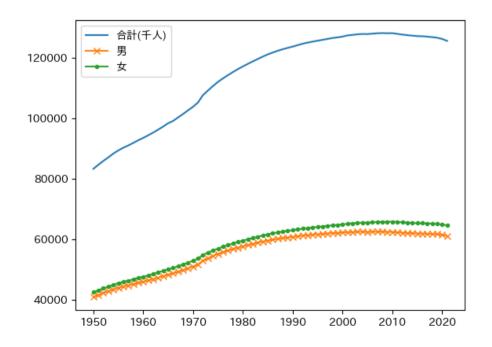


収蔵作品にアクセスができる。

◆matplotlib の日本語化

起動のためには、「japanize-matplotlib」が必要なので、事前に Anaconda の PowerShell などを使ってインストールしておく。

\$pip install japanize-matplotlib



```
import json, japanize matplotlib
import matplotlib.pyplot as plt
# 人口推移の JSON ファイルを読む
data = json.load(open('pop.json', encoding='utf-8'))
# 複数の線グラフを描画するようにデータを分割
x, totals, man, woman = [],[],[],[]
for row in data:
   x.append(row['year']) # 西暦年
   totals.append(row['total']) # 男女合計
   man.append(row['man']) # 男性
   woman.append(row['woman']) # 女性
# グラフを描画
p_total = plt.plot(x, totals, label='合計(千人)')
p_man = plt.plot(x, man, marker='x', label='男')
p_woman = plt.plot(x, woman, marker='.', label='女')
plt.legend() # 凡例を表示
plt.show()
```